

麦類の出穂期が早まっています。 麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！

[現在の状況]

- ① 3月下旬現在、龍ヶ崎市における麦類の出穂期は平年より9～11日早くなると予測される(表1)。
- ② 農業研究所および病害虫防除所の調査圃場における大麦の予測出穂期(実測値含む)は3月下旬～4月中旬であり、小麦の予測出穂期は4月上旬～下旬である(表1, 2)。
- ③ 予測出穂期から算出した予測防除適期を表1, 2に示した。なお、今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、表1, 2に記載した出穂期および防除適期は、1～4日早まる可能性がある。
- ④ 3月15～18, 25日に県内の広い地域で氷点下となり、幼穂凍死等やこれによる出穂期のばらつきが生じる恐れがある。

表1 農業研究所(龍ヶ崎市)における予測出穂期および予測防除適期(令和2年3月27日現在)

麦種	品種	播種期	予測出穂期 ¹⁾	出穂期 ¹⁾		予測防除適期 ²⁾
				平年値	平年差	
六条大麦	カシマゴール	11/10	3/26 ³⁾	4/4	9日早い	3/29
	カシマムギ	11/10	3/27 ³⁾	4/6	10日早い	3/30
二条大麦	ミカモ	11/10	3/26 ³⁾	4/4	9日早い	4/7～4/9
	ゴールデン					
小麦	さとのそら	11/10	4/4	4/15	11日早い	4/11～4/14
		11/20	4/7	4/18	11日早い	4/14～4/17

1) 農研速報のデータ(3/30発行)を用いた。

2) 予測防除適期は、六条大麦は予測出穂期の3日後、二条大麦は予測出穂期の12～14日後、小麦は予測出穂期の7～10日後とした。

3) 実測値

表2 六条、二条大麦および小麦の予測出穂期と赤かび病の予測防除適期(令和2年3月30日現在)

麦種	品種	地域	調査地点	播種期	予測出穂期 ¹⁾	予測防除適期 ²⁾
六条大麦	カシマゴール	県央	水戸市上国井町	11/ 5	4/ 1 ³⁾	4/ 4
			水戸市小林町	11/18	4/18	4/21
		県南	河内町源清田	11/21	4/18	4/21
	カシマムギ	県西	常総市大輪町	11/20	4/ 4	4/ 7
			筑西市伊讃美	11/15	4/ 4	4/ 7
		筑西市小栗	12/ 4	4/16	4/19	
二条大麦	ミカモ	県央	那珂市飯田	11/15	4/ 5	4/17～4/19
		県南	稲敷市佐原組新田	11/21	3/31	4/12～4/14
	ゴールデン	県西	桜川市原方	12/10	4/17	4/29～5/ 1
		筑西市小栗	11/20	4/ 1	4/13～4/15	
小麦	さとのそら	県央	水戸市上国井町	11/ 5	4/17 ³⁾	4/24～4/27
			11/19	4/20 ³⁾	4/27～4/30	
		県南	つくば市泉	12/25	4/25	5/ 2～5/ 5
			つくば市大形	11/16	4/17	4/24～4/27
			つくばみらい市市野深	12/ 6	4/16	4/23～4/26
		県西	下妻市高道祖	11/25	4/28	5/ 5～5/ 8
			桜川市加茂部	11/20	4/18	4/25～4/28
			桜川市原方	12/15	4/25	5/ 2～5/ 5
			筑西市二木成	11/20	4/16	4/23～4/26
結城市結城	12/ 8	4/23	4/30～5/ 3			
八千代町高崎	12/ 5	4/22	4/29～5/ 2			

1) 農業研究所ホームページに掲載されている「麦類主要品種の主稈長による莖立ち期、幼穂長による出穂期予測法」の計算式を用いて予測した。各調査地点付近のアメダス観測所(日平均気温)は、予測計算日以前までの実測値および予測計算日以降の平年値を用いた。

2) 予測防除適期は、六条大麦は予測出穂期の3日後、二条大麦は予測出穂期の12～14日後、小麦は予測出穂期の7～10日後とした。

3) 水戸市上国井町の幼穂長は農研速報(3/12発行)のデータを用いた。

[防除対策]

- ① 防除適期は、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時（出穂期の3日後頃）、二条大麦では穂から葯殻が出ていることを確認した時（出穂期の12～14日後頃）、小麦では開花始期～開花期（出穂期の7～10日後頃）である（図）。予測される出穂期および防除適期は麦種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。
- ② 赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上の条件を満たし、湿度 80%以上の日か降雨日とその翌日」である。飛散好適条件が続く場合は、1 回目の薬剤散布 7～10 日後に 2 回目の散布を行う。
- ③ 凍霜害による出穂期のばらつきや不稔が目立つほ場では、必要に応じて追加防除を検討する。
- ④ 薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する(表 3)。また、2 回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いる。

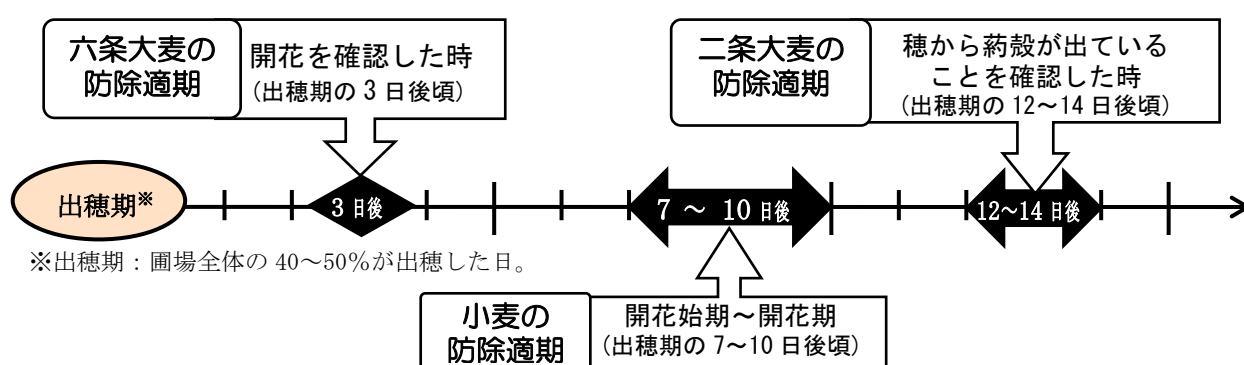


図 麦類赤かび病の防除適期

表3 麦類赤かび病に登録のある主な薬剤（令和2年3月25日現在）

薬剤名	適用作物	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法「無人航空機による散布」の適用 ¹⁾	FRACコード ³⁾
トップジンM水和剤	麦類 (小麦を除く)	1,000～ 1,500倍	収穫30日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	無 ²⁾	1
	小麦		収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)		
チルト乳剤25	大麦	1,000～ 2,000倍	収穫21日前まで	1回	有	
	小麦		収穫3日前まで	3回以内		
シルバキュアフロアブル	大麦	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	有	3
	小麦		収穫7日前まで			
ワークアップフロアブル	麦類	2,000～ 3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	有	
ストロビーフロアブル	麦類 (小麦を除く) 小麦	2,000～ 3,000倍	収穫14日前まで	3回以内	無	11

- 1) 使用方法「無人航空機による散布」においては、希釈倍数等が表中の内容と異なるので十分注意する。
- 2) トップジンM水和剤と有効成分が同じであるトップジンMゾルは、使用方法「無人航空機による散布」の適用がある。
- 3) 殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により、殺菌剤の有効成分の作用機構を分類し、コード化したもの。